松尾 貴公 北田 彩子

~ 聖路加チーフレジデントがピンチの研修医を救出します~

第12回

海外帰りの発熱

北田 彩子

今回の肝

- 1. 海外帰りの発熱をみたら、輸入感染症の前に まず一般感染症を考える
- 2. 大事なのは、潜伏期間、渡航地、曝露歴
- 3. マラリアは除外できるまで鑑別から外さない

エピソードコ

ピンチの研修医

―ある当直の夜。

: 先生、フィリピンから帰国されたばかりの 42 歳の 日本人女性ですが、発熱を主訴に来られています。 熱源が不明で、全身状態も悪く、救急外来から入院を依頼し たいのですが。

: お疲れさま! なるほど。フィリピン帰りの渡航者 だね。それでは病歴に関して詳しく聞かせてもらお うかな。熱源がどこにあるのか、問診だけでどこまで迫れて いるの?

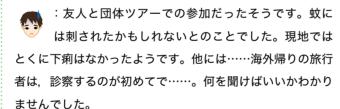
:はい、来院の2週間前からフィリピンへ渡航し、1 週間滞在。1週間前にフィリピンから戻ってきて, 来院前日から全身倦怠感が出現し、来院当日に発熱があった ので、 救急外来を受診されています。

: そうだね. 他に症状は? プレゼンでは. 感染の フォーカスを相手に想像させるように話さないとい けないよ。それには陽性所見はもちろん、呼吸器症状がない、 尿路刺激症状がない、といった陰性所見にも言及することが 大切だよ! これは pertinent negative といって、診断に寄 与する重要な情報なんだ。

:はい、喀痰・咳嗽はなく、頭痛、咽頭痛、関節痛 腰痛、腹痛・下痢もありません。頻尿や排尿時痛 排尿困難などもありませんでした。



: なるほど。それでは渡航に関する情報はどうなの?



:そうだね。私も海外帰りの患者さんを初めてみた ときは、準備していなかったから、聞くべきポイン トを押さえられなくて、先輩に怒られたのを覚えているよ。



: うー, すいません。



: 大丈夫。この機会に勉強していこうね!



: はい!



チーレジの救出

: まず押さえておきたいことは、海外帰りの発熱と いうことで珍しい輸入感染症を疑う前に、common な熱源の検索をしっかりしよう、ということだね! それで は一緒に診察しにいこうか。



: はい!

もう一度問診をとり直すと、腎盂腎炎の既往があり、1 か月前に新しいパートナーができたとのことであった。 身体所見では右の腎把握痛がありそうである。尿中白血 球も2+であった。



: 腎把握痛には気がついたかな?



: CVA(肋骨脊椎角)叩打痛は陰性だったのですが、た しかにこうしてみると、再現性をもって痛がりますね。



: 尿のグラム染色もやってみよう!



: そうですね、やっていませんでした。

尿グラム染色では腸内細菌様のグラム陰性桿菌 (gram-negative rods: GNR) およびその含食像が みられた。

: 発熱, 腎把握痛, 細菌尿からは, 急性腎盂腎炎とい うことでよさそうだね。一応、閉塞機転がないかなど の検索目的にエコーをあてて、水腎症の有無もみておこうか。



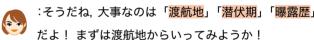
:はーい!

Common disease t common! 海外帰りの発熱でも輸入感染症を疑う前に 全身の熱源検索を!

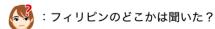
エピソード2

ピンチの研修医

:この患者さんは UTI(尿路感染症)でしたが、渡 航にまつわることで聞くべきポイントはどんな点で しょうか?



:この方はフィリピンですね。



:ツアーだと言っていたので、メジャーな都市にし か行っていないと思うのですが……詳しくは聞けて いません。

: 具体的な地名をチェックするのが大事だよ。都市 部なのか田舎なのかでも、疑う疾患が変わってくる。 また、そこでおこなったアクティビティも確認するといいね。

94 レジデント 2015/9 Vol.8 No.9